2013年3月期 決算説明会

2013年5月29日

あすか製薬株式会社

2013年3月期　連結決算概要

あすか製薬株式会社
取締役　丸尾　篤嗣

損益計算書(連結)

(金額単位:百万円)	2012年3月期	2013年3月期	増減額	増減率
売上高	40,637	40,963	325	0.8%
売上原価	22,624	23,054	430	1.9%
売上総利益	18,014	17,908	△105	△0.6%
販売費及び一般管理費	17,078	16,847	△231	△1.4%
営業利益	935	1,061	125	13.4%
経常利益	1,224	1,336	112	9.2%
特別利益	―	359	359	―
特別損失	497	104	△393	△79.1%
当期純利益	7	1,114	1,106	―

事業別売上高(連結)

(金額単位:百万円)	2012年3月期	2013年3月期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品	36,792	37,114	90.6%	321	0.9%
動物用医薬品	3,529	3,528	8.6%	△1	△0.1%
その他	314	321	0.8%	6	2.1%
合　計	40,637	40,963	100.0%	325	0.8%

要因

- 医療用医薬品:　長期収載品の落ち込みをジェネリック医薬品でカバー

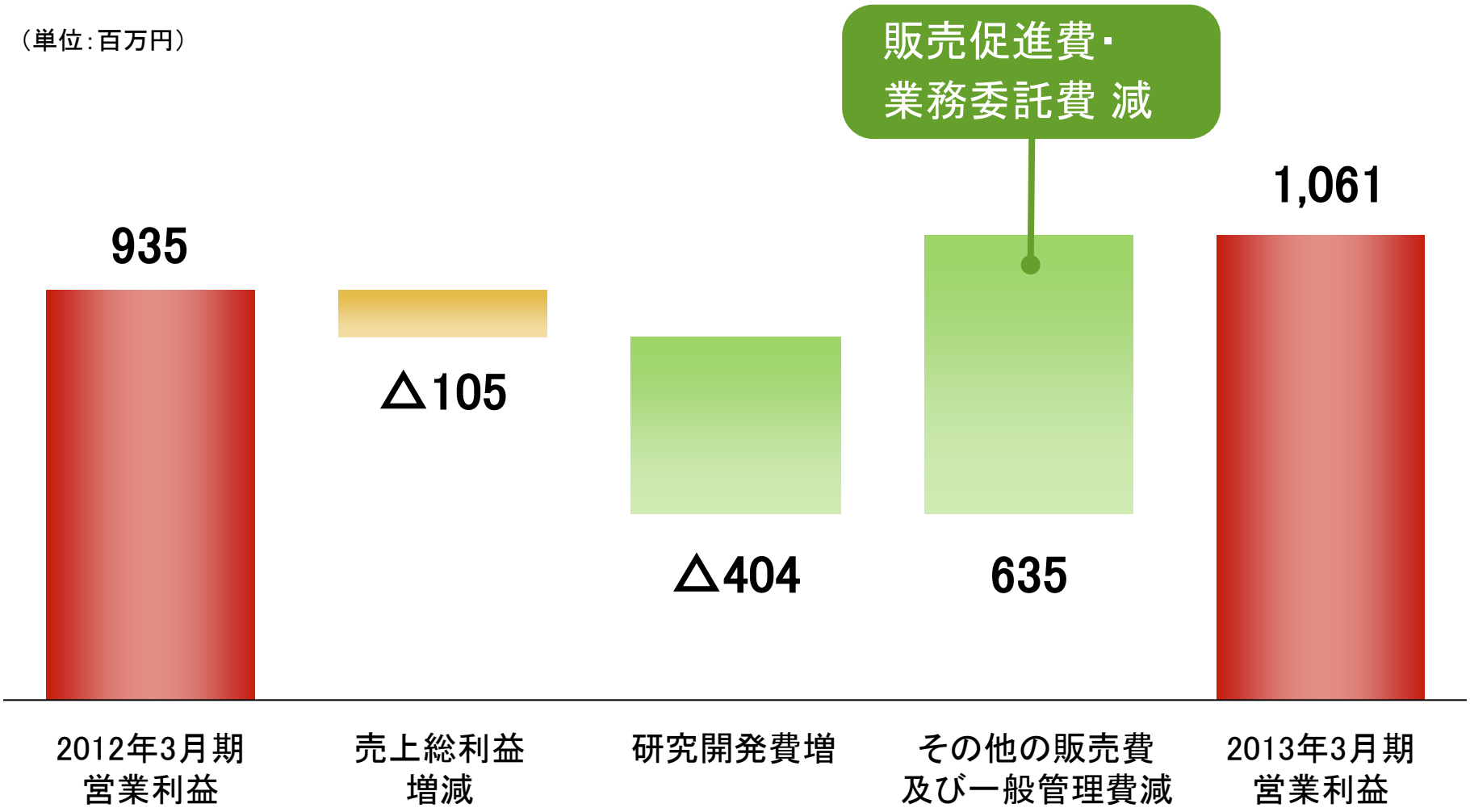
主要製品・重点3領域売上高

領域	製品	2012年3月期	2013年3月期		2014年3月期	
		実績（百万円）	実績（百万円）	前同比（%）	計画（億円）	前年比（%）
内科	セルタッチ	6,912	4,856	70.3	44.9	92.5
	チラーヂン	4,738	4,592	96.9	48.3	105.2
	リピディル	4,834	4,122	85.3	45.9	111.3
	※ アムロジピン「あすか」	1,437	1,842	128.2	19.3	104.6
	アルタット	1,696	1,626	95.9	15.0	92.2
	※ ラベプラゾール	172	680	393.8	6.7	97.8
産婦人科	アンジュ	1,205	1,234	102.5	12.0	97.0
	※ ルテオニン	508	611	120.2	6.2	101.9
	ノルレボ	382	535	140.0	6.9	128.7
	メノエイド	421	436	103.7	4.9	111.8
	※ ゴナピュール	253	291	114.9	3.1	106.3
泌尿器科	※ ビカルタミド	1,937	2,080	107.4	20.8	100.0
	プロスタール	2,153	1,990	92.4	17.1	85.8
	※ リストリーム	581	606	104.2	6.5	107.8
※その他重点3領域GE群		3,655	4,205	115.0	53.3	126.7
小　計		30,892	29,713	96.2	310.8	104.6
（小計/医療用医薬品）%		84.0%	80.1%		81.7%	

※：ジェネリック医薬品

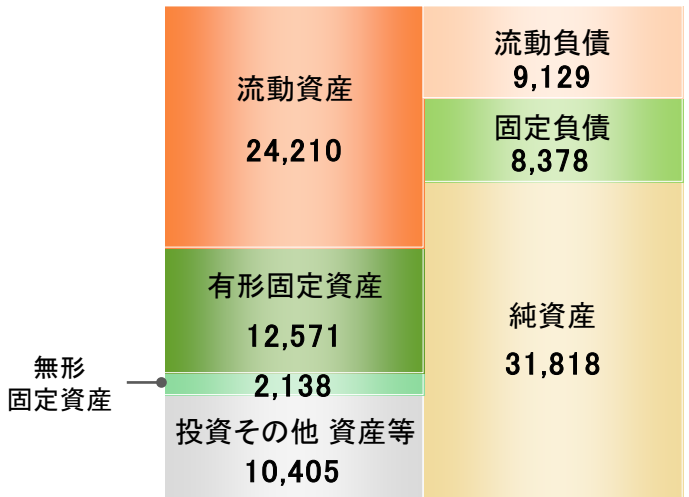
営業利益増減分析

（単位：百万円）



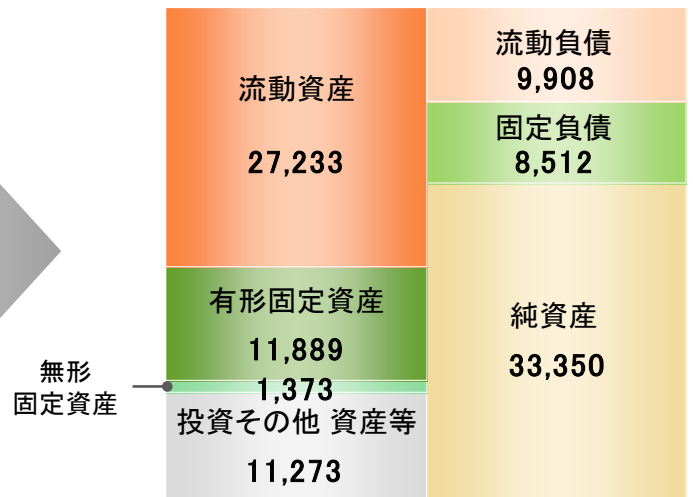
貸借対照表(連結)

2012年3月期末 (百万円)



総資産 49,326百万円

2013年3月期末 (百万円)



総資産 51,770百万円

	総資産	流動資産	有形固定資産	無形固定資産	投資その他資産等	流動負債	固定負債	純資産
増減額	2,444	3,023	△682	△764	868	779	134	1,531

分析

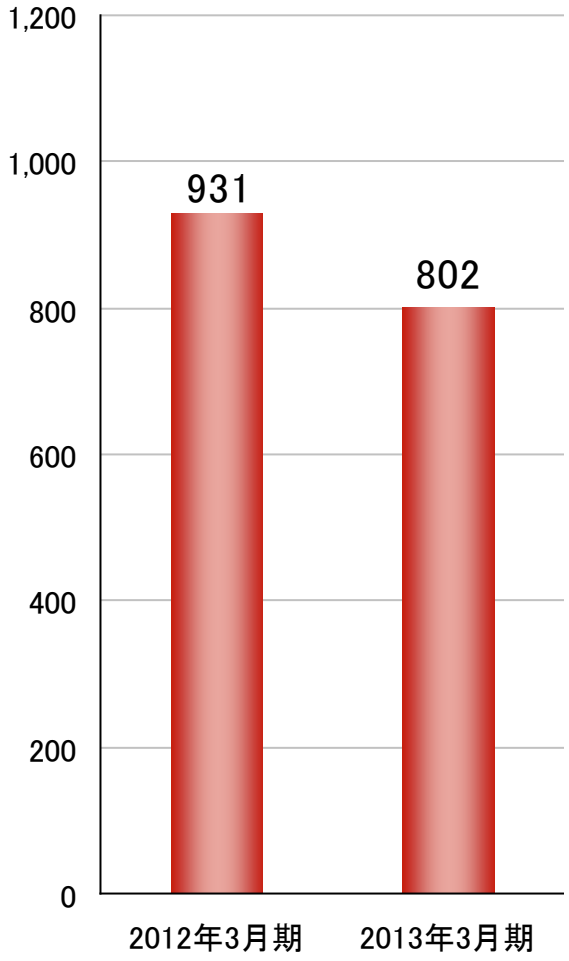
- 流動資産:有価証券 2,499、受取手形及び売掛金 649
- 有形固定資産:新規取得 802、減価償却費 △1,452
- 無形固定資産:新規取得 137、減価償却費 △901
- 投資その他資産等:投資有価証券 1,115
- 流動負債:未払法人税等 817、短期借入金 500、支払手形及び買掛金 △1,042
- 純資産:その他有価証券評価差額金 739、利益剰余金 727

キャッシュ・フロー計算書（連結）

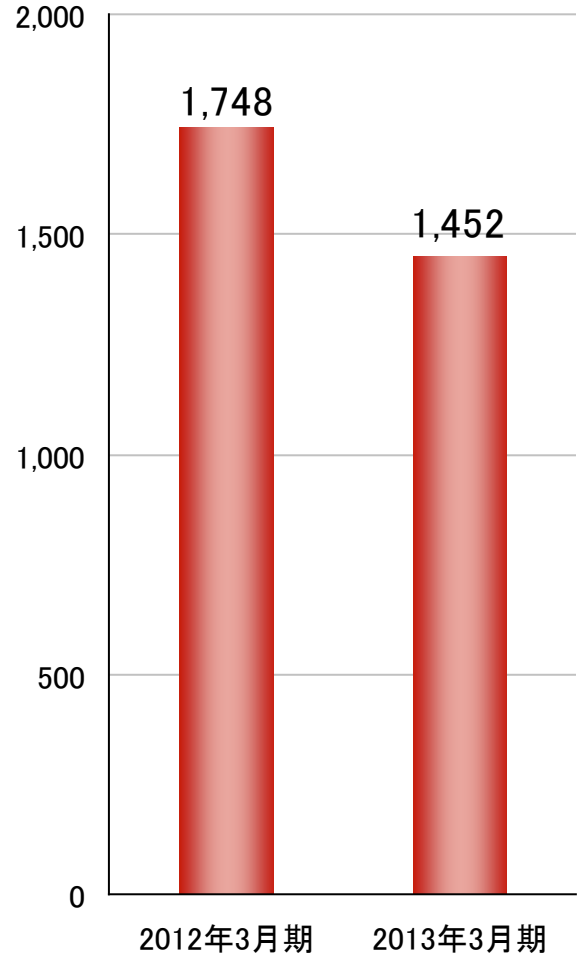
（金額単位：百万円）	2012年3月期	2013年3月期
営業活動による キャッシュ・フロー	△2,514	3,869
投資活動による キャッシュ・フロー	△37	△1,484
財務活動による キャッシュ・フロー	△4,470	124
現金及び 現金同等物の期末残高	4,068	6,578

設備投資等の概要

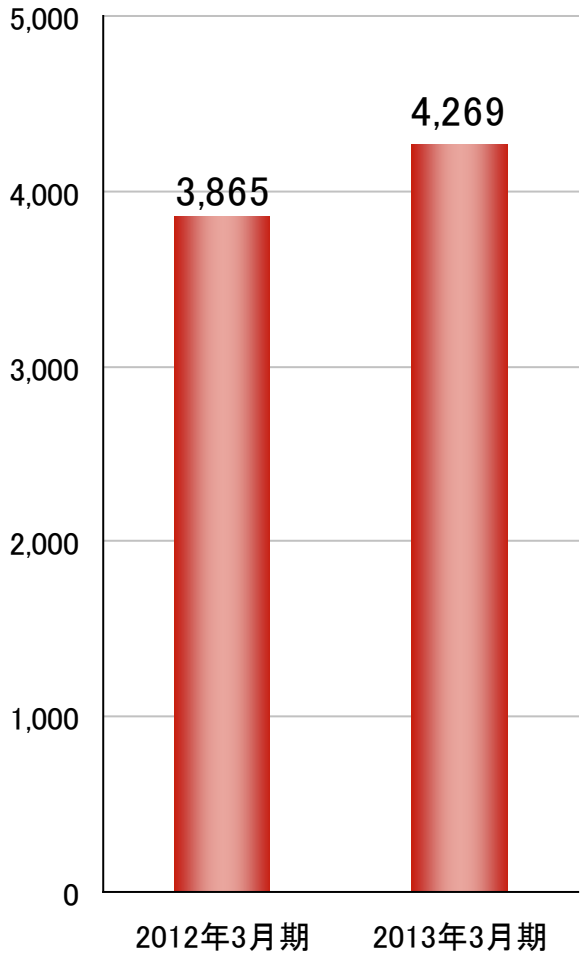
設備投資 （百万円）



減価償却費 （百万円）



研究開発費 （百万円）



2014年3月期計画（連結）

（金額単位：百万円）	2013年3月期 実績	2014年3月期 計画	増減額	増減率
売上高	40,963	41,900	937	2.3%
営業利益	1,061	700	△361	△34.1 %
経常利益	1,336	1,050	△286	△21.5 %
当期純利益	1,114	600	△514	△46.1%

主にジェネリック医薬品の売上増

研究開発費 増

株主還元について

配当方針

- 2013年3月期は、期末配当金を7円とし、中間配当金7円と合わせ年間14円といたします。
- 2014年3月期は、安定配当として年間配当金14円を予定しております。
- 今後の配当につきましては、安定的な配当の継続を基本とし、業績、今後の事業展開および財務状況等を総合的に勘案して実施し、成果の配分を高めるよう努めてまいります。

中期経営計画
ASKA PLAN 2015

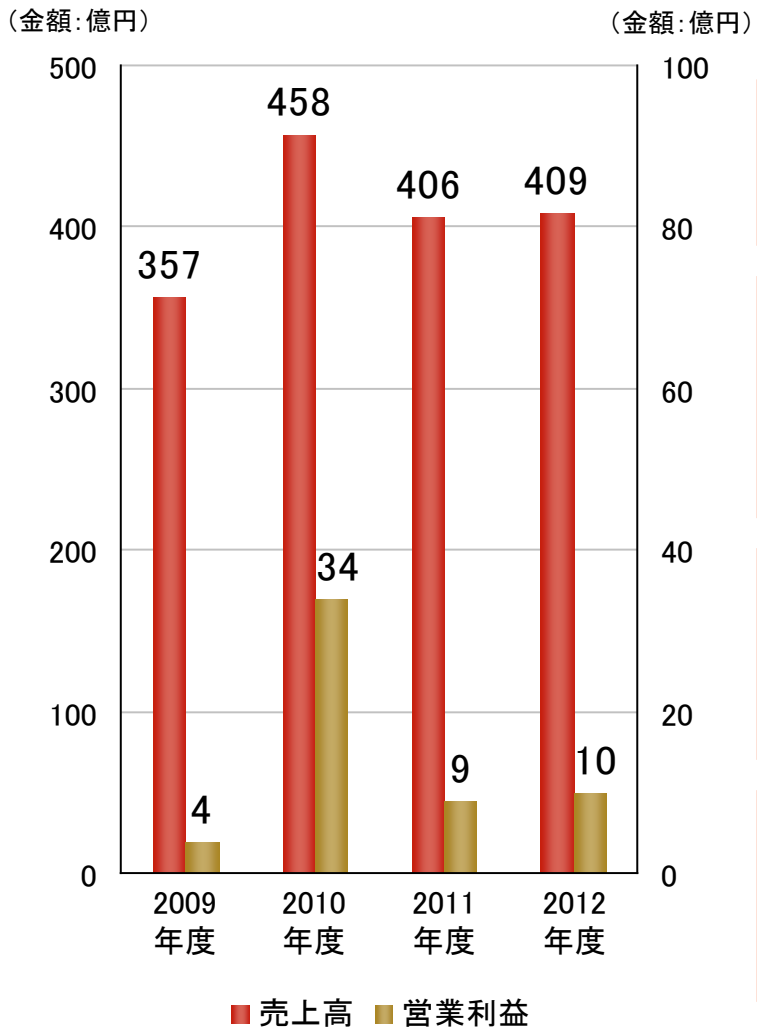
あすか製薬株式会社
代表取締役社長　山口 隆

トピックス

1. 「フェブリク®錠」 泌尿器領域における コ･プロモーション開始
2. 「ミンクリア」 2013年2月　適応拡大
3. 2013年度発売予定のジェネリック医薬品申請
4. 「リファキシミン」 肝性脳症　オーファン申請
5. 「ノルレボ」 適正使用の推進

ASKA PLAN 2012　総括

震災の影響やジェネリック医薬品事業の育成の遅れはあったが、成長の材料は予定通り揃ってきた



目標	成果・結果
数値目標（連結） 売上高　：480億円 営業利益：　30億円	● 売上高、営業利益とも未達 売上高　：409億円 営業利益：　10億円
重点3領域（内科、産婦人科、泌尿器科）に資源を集中し、研究開発の促進および新製品の上市により売上規模の拡大	● ミンクリア、ノルレボ 発売 ● リファキシミンの開発促進 ● フェブリク®錠　コ・プロモーション ● ウリプリスタールの開発促進 ● AKP-002導出
コストの削減と生産性・効率性の向上に取り組み「収益の向上」を図る	● 要員適正化 ● 販管費削減 ● 物流拠点の増設による在庫の分散配置 ● 震災後の製造委託等により原価率上昇
多様化する医療ニーズに応える	● アルタット　：小児用法・用量追加、剤形追加 ● リピディル　：新剤形 ● チラーヂン：規格追加

（トピックス）

内 科　リファキシミン希少疾病用医薬品指定取得

予定する効能・効果：　肝性脳症

- 2013年4月25　医薬品第二部会での審議を経て、厚生労働省より5月13日付けで指定を受けた。
  現在、肝性脳症患者を対象に国内第Ⅱ／Ⅲ相試験を実施し、さらに国内第Ⅲ相試験も実施中。
- 2013年1月現在、米国及びEU等39の国において、肝性脳症関連の適応で承認されている。

（トピックス）

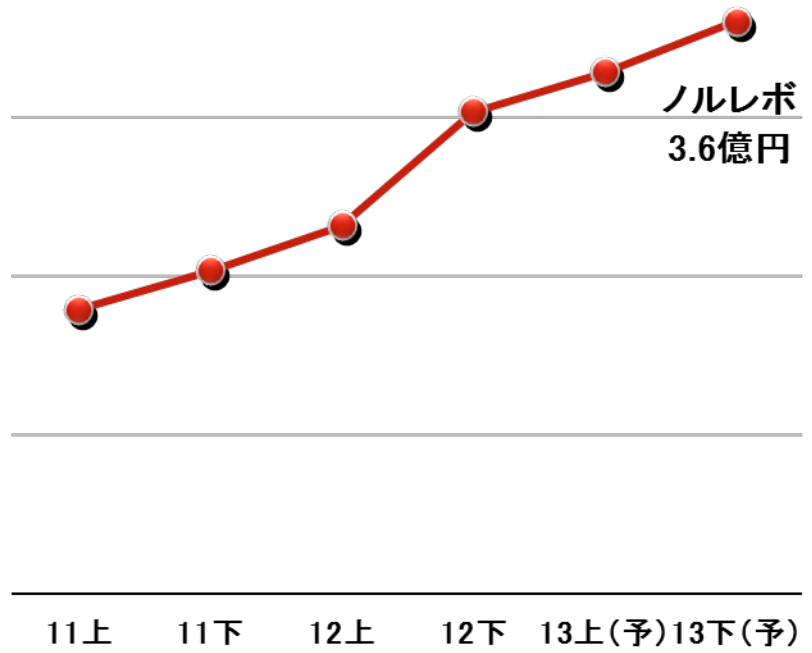
産 婦　ノルレボ錠の適正使用を推進

（2012年度）

事業所	講演会回数	講演会出席人数
北海道・東北エリア	7	200
関東エリア	19	1,800
中部エリア	15	700
関西エリア	5	200
中国四国エリア	8	200
九州エリア	5	300
全社計	59	3,400

※本部主催のセミナーは関東エリアに集約

売上推移



「緊急避妊法適正使用セミナー」・「講演会」による啓蒙活動を通じ、適正使用の浸透を図り、女性のQOL向上をサポート

ASKA PLAN 2012　残された課題

課題

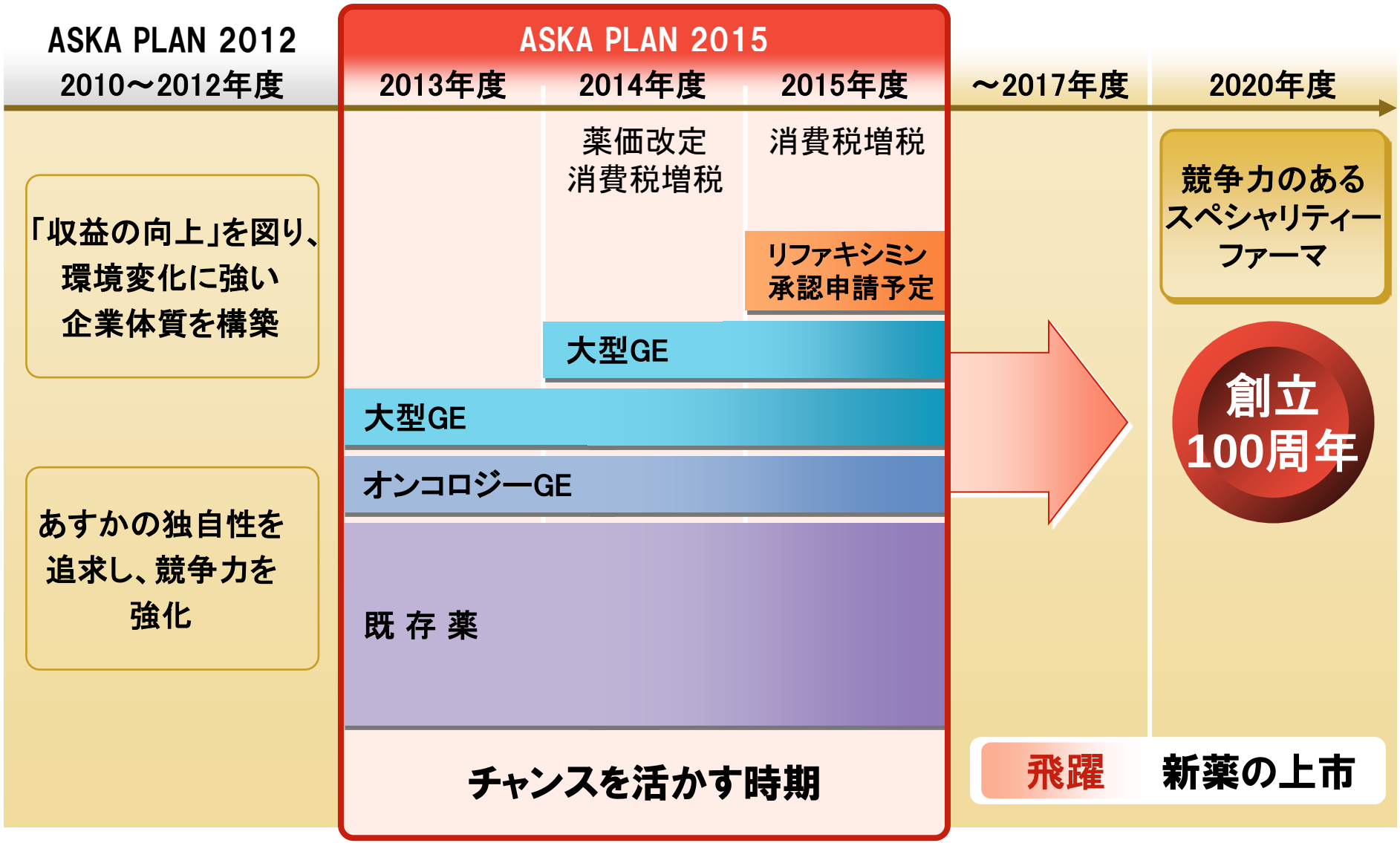
1　震災の影響によるコストアップ

2　営業利益の確保

3　重点3領域への集中化

ASKA PLAN 2015

ASKA PLAN 2015の位置づけ



基本方針

収益改善

新経営体制

経営と執行の分離

- 意思決定の迅速化
- 執行責任の明確化による部門計画の達成

選択と集中

投資効率の改善

- 重点3領域への集中による新薬の製造販売承認取得加速
- グループ全体でのジェネリック事業の再構築と確立

生産性向上

コストの最適化

- いわき工場の内製化促進による稼働率向上
- 適正予算の実行と再配分

数値目標

2015年度目標値

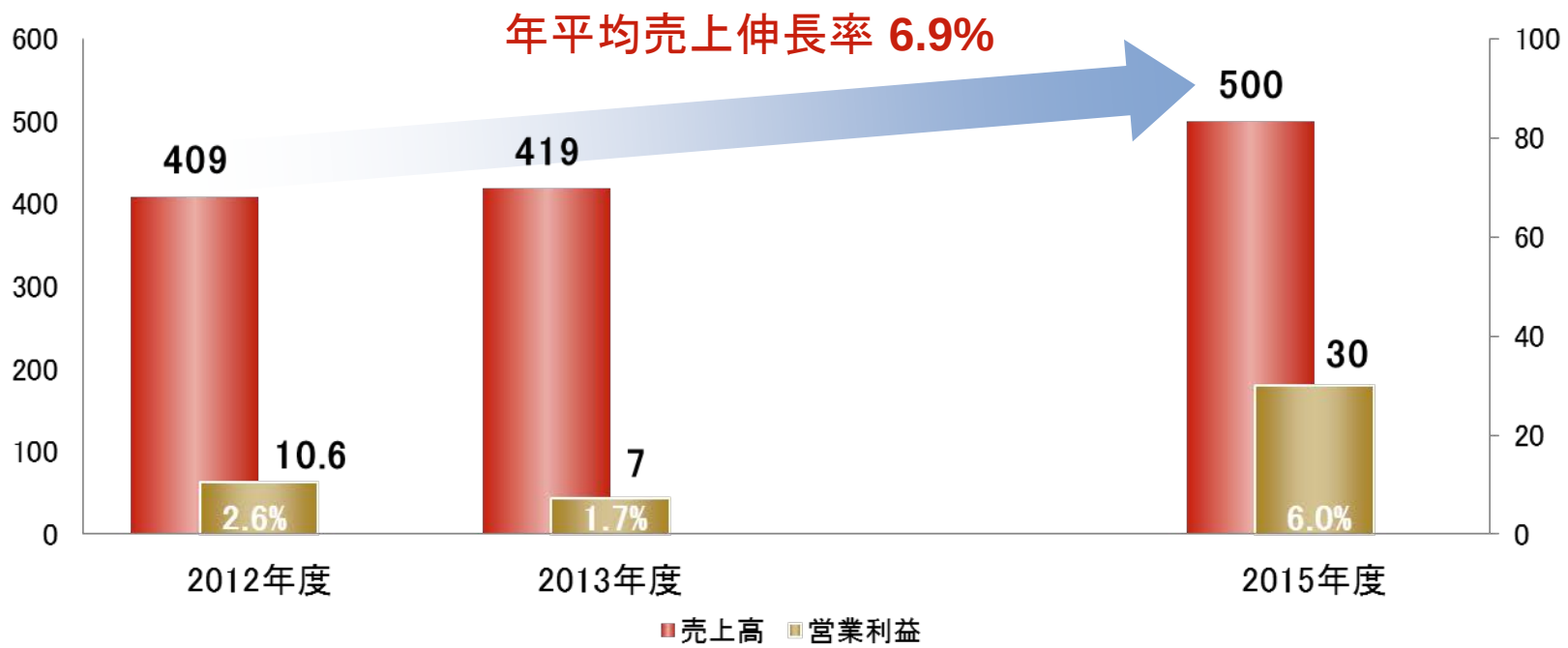
売上高 500億円　営業利益 30億円　営業利益率 6%

連　結

（金額単位：億円）

	2012年度	2013年度	2015年度
売　上　高	409	419	500
営業利益	10.6	7	30
営業利益率	2.6%	1.7%	6.0%

（金額単位：億円）



次期新製品の開発促進

- 重点3領域に研究開発資源を集中させ、重要テーマ（L-105, CDB-2914, AKP-008, AKP-501）については、臨床開発体制を強化して取組む。
- 特に L-105 については最優先で進める。

研究開発の状況（2013年5月現在）

※ 自社開発品　内科　婦人科　泌尿器科



次期新製品の開発促進(領域別)

内科

■ L-105(リファキシミン)	肝性脳症、過敏性腸症候群(IBS)、クローン病
■ AKP-001(p38MAPK阻害剤)	炎症性腸疾患(IBD)

産婦人科

■ CDB-2914(ウリプリスタール)	子宮筋腫、緊急避妊
■ AKP-008(プロゲステロン膣坐剤)	IVF-ET における黄体ホルモン補充
■ AKP-501(rFSH)	不妊症

泌尿器科

■ AKP-002(PDE9阻害剤)	前立腺肥大症に伴う排尿障害

※ 自社開発品

※ アステラス製薬へ導出

ジェネリック医薬品　2013年度～2015年度　24成分49規格の発売を予定

- あすかActavis製薬と共同でジェネリック医薬品市場への浸透と製品開発を進め、本中計期間中にグループとしての事業活動を確立させる。
- 大型製品、独自の技術を応用した付加価値製品を発売する。
- 抗がん剤のジェネリック医薬品（オンコロジージェネリック）をラインナップする。

	2013年度	2014年度	2015年度
産婦人科／泌尿器科	大型製品		
内科		大型製品	付加価値製品
オンコロジー	3製品	3製品	3製品
総計（予定）	**9成分 14規格**	**7成分 23規格**	**8成分 12規格**

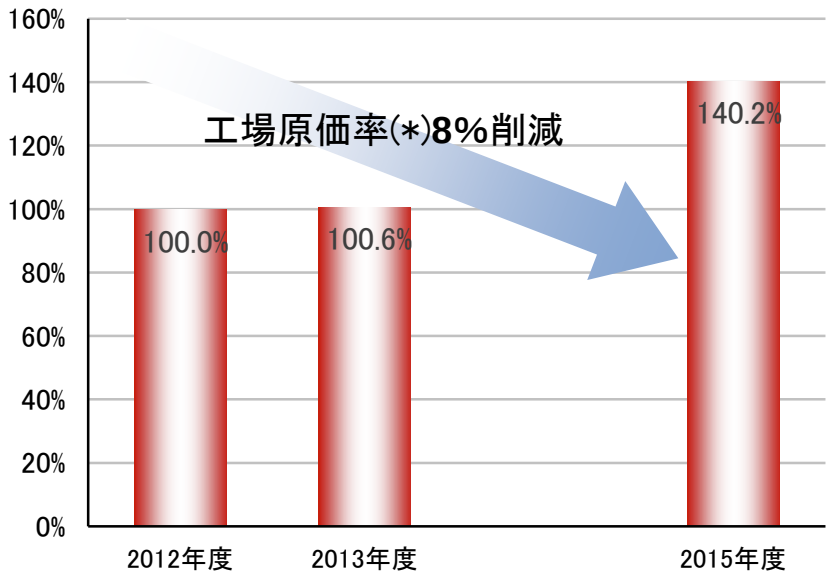
生　産

いわき工場の生産能力増強・稼働率向上

安定供給・品質確保に努め、委託品の内製化を進めて生産性の向上を図る

委託品の内製化	自社製造による原価率低減への取組み
設備拡充・リニューアル	増産対応設備の導入・拡充
新品質管理棟の稼働	国際品質基準への対応による品質確保

いわき工場生産性の推移



- 2015年度一人当たりの生産額：対12年度比135%
- 委託品の内製化と大型GE品の自社生産

（* 商品を除いた、いわき工場の製造原価率）

いわき工場　新品質管理棟（2013年4月竣工）



信頼性

- cGMP、ICHガイドライン等各基準への対応
- 自然災害による実験機能の停止回避
- 温湿度等環境条件の見える化

機能性

- 無駄のないゾーニング計画とコンパクト設計
- 変化に柔軟に対応できる設備
- 省エネ・省CO_2のグリーンラボラトリー

営　業

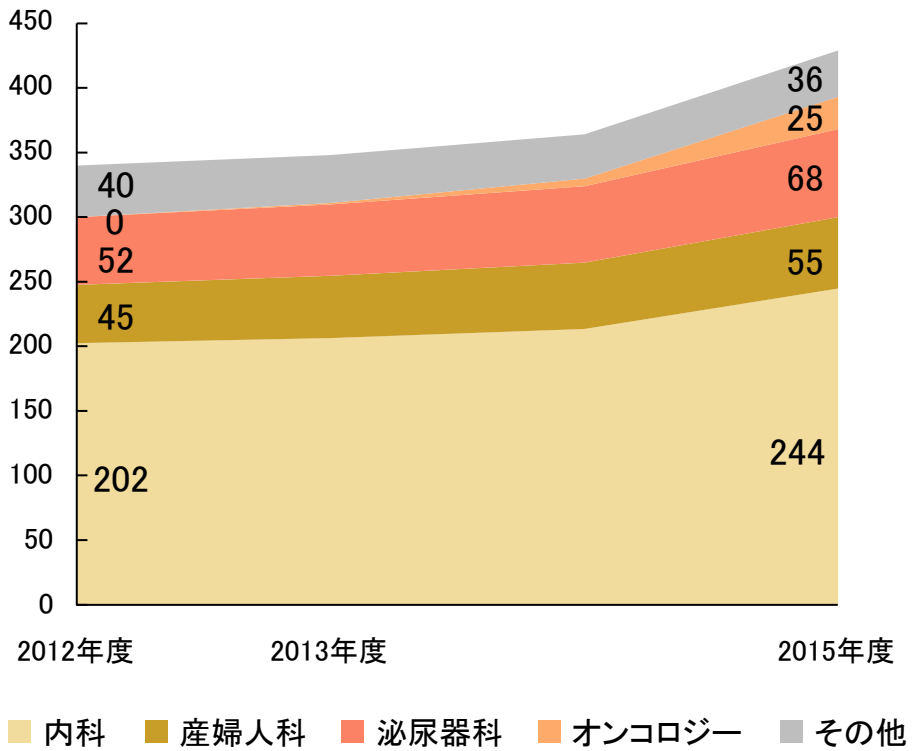
MR一人当たりの生産性向上

エリア最適戦略により戦略活動品目・重点活動品目・大型ジェネリック品を育成

重点3領域への注力　戦略活動品目・重点活動品目に資源を集中

ジェネリック事業の確立　グループのジェネリック医薬品事業を拡大し確立

領域別売上高の推移



（金額：億円）	2012年度	2015年度	12年度比
内　科	202	244	+41
産婦人科	45	55	+9
泌尿器科	52	68	+16
オンコロジー	0	25	+25
その他	40	36	△3
合　計	340	430	+89

(*) 個別製品群の累計でバルクを除く

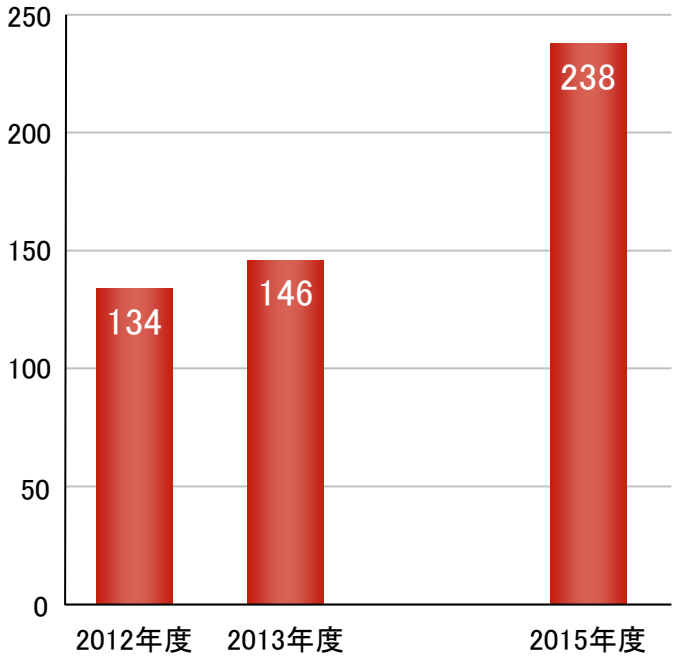
ジェネリック事業

販売体制の再構築

グループでジェネリック医薬品市場への浸透を図る

グループによる市場展開	あすかActavis製薬と共同で市場浸透・開拓
先発・ジェネリック構成比の逆転	2012年度40%の構成比を2015年度55%まで拡大
オンコロジー領域への挑戦	Actavis社との連携によるオンコロジー製品の導入

ジェネリック医薬品販売計画 （億円）



先発・GE比率の推移

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
先発	60%	59%	53%	45%
ＧＥ	40%	41%	47%	55%

中期経営計画発売予定GE品

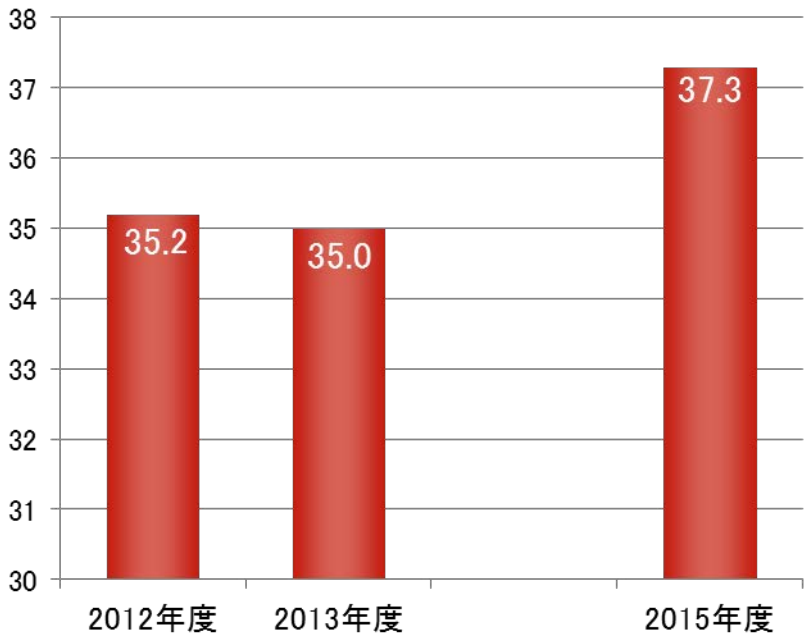
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
成分数	7成分	9成分	7成分	8成分
内オンコロジー	0成分	3成分	3成分	3成分

各事業の取り組み

アニマルヘルス事業

「栄養と繁殖・免疫」領域の強みを活かし、収益の向上を目的とした事業を構築する。

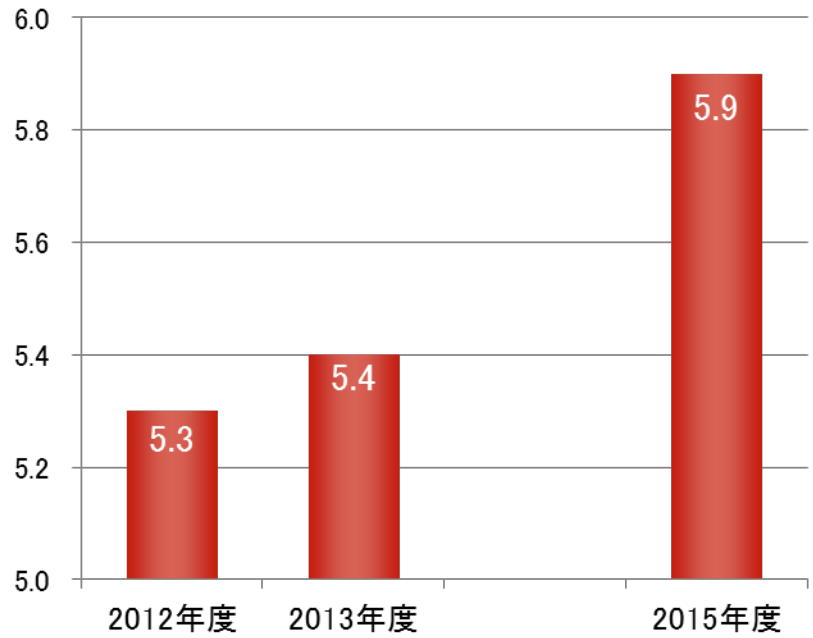
売上高 （億円）



あすか製薬メディカル

検査事業とヘルスケア事業の売上伸張を目指した事業展開を進める。

売上高 （億円）



- この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております
- したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います
- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません

お問い合わせ先

総務部

Tel　：03－5484－8366

e-mail：tsuzuki-m@aska-pharma.co.jp

担当　：都筑　正人

あすか製薬株式会社

ご参考：医療用医薬品の売上構成比・伸張率

